

2019年4月28日

都道府県高等学校野球連盟  
審判委員の皆様へ

日本高等学校野球連盟  
審判規則委員会

「甲子園から全国へ・・・2019年春」

平成最後の甲子園大会、第91回選抜高等学校野球大会は前年に引き続き雨天等による順延はなく、2回戦最後の試合で1時間50分の雨天中断があったものの、順調に日程を消化し閉幕しました。

昨年の野球規則改正では「申告故意四球」「反則投球」、今年の野球規則改正では「準備投球」について、いずれも高校野球特別規則を制定しました。

また今年も、2年に一度の「高校野球審判の手引き」改訂年でした。記念大会の前後に発行された各々巻頭記載の「不易流行」と「Next One」には、今後の大切な方向性が記されています。様々な事を考えて熟読してください。

今大会を通じて、幾つかの課題を振り返ってみます。

1. サイン盗み疑惑について

星稜-習志野戦の試合後に騒動となりましたが、ほかの試合でも球審が2塁走者に「疑わしい動作をしないように」と注意をする事例が起きています。

大会前の監督会議でも詳細かつ具体的に説明し、注意喚起しているにもかかわらず、残念な限りです。本件は高校野球としてあってはならないことであり、繰り返し繰り返し指導を徹底するしかありません。(特に2塁走者の動作について)

2. 投球を避けない行為について【重点指導事項4.】

エルボーガードを突き出して、ヒットバイピッチを得ようとする行為が2回ありました。

これらはアンフェアな行為であり、何よりも危険です。注意喚起の徹底と、発生した際の厳しい指導・対応により根絶しなければなりません。

3. 正しい捕手の位置について【重点指導事項2.】

球審が捕手とコミュニケーションを取りながら指導したことにより、昨年度の大会と比べ多くの試合で改善が図れていました。捕手が、大きくキャッチャースボックスから出て構えることの無いよう継続的な指導をお願いします。

4. その他

- ・投手のセットポジション(無走者時)での完全静止がない事。 5.07 (a) (2)【注1】
- ・グラブ、ミットのしめ紐が長く結ばれていない事。(親指の長さ程度にする)

以上、特に共通課題としていただきたい内容を列挙しました。